

### 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本方針にも地域交流が掲げられ「地域社会との交流を深め地域に貢献し愛される家」「心癒され安らぎのある家庭的な家」を基に入居者が地域の中で支えあっていることを第一に考えている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者一人ひとりがその人らしく安心して暮らせるよう日々の中で理念を具体化、再確認しながら職員全員が共有し一体となって実践に向け取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の方へは運営推進会議や町内集会などで理念、取り組みについて説明し理解を得られるよう取り組んでいる。又、ホーム内の見やすい場所に掲示している。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内総会では、はなは、グループホームの役割について意見交換し、いつでも相談に応じることを伝えている。又、地域の運動会、夏祭り、神社祭り等の季節ごとの行事に参加し交流を行っているほか、栗畑やブルーベリー畑など身近なところで季節を楽しむ場を設けていただいている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解し日々のケアのあり方を見直しながら、職員と一緒に自己評価に取り組んでいる。又、評価結果は職員全員周知し、より良いサービスの提供に繋がるよう、検討・改善に前向きに取り組んでいる。	
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動内容や取り組みについて報告し、家族や地域の方に知っていただき、入居者が安心して暮らせるよう助言を頂きサービスに反映させている。会議に地域・市役所の方が同席することでさまざまな意見交換の場となっている。	
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所には自己評価、外部評価を提出している。又、運営推進会議に出席していただきホームの運営や現場の実情を伝え、意見や情報提供を頂いている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護を利用している方が1名、成年後見制度を利用している方が1名おられる。又、勉強会を行い、職員は周知している。	
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	2006年4月に施行された高齢者虐待防止法について事例を交えながら勉強会を行い、オーダーメイドケアの視点から個々にあったケアを実践することで、入居者が安心して過ごせるよう職員は、「しない」・「させない」を徹底して行っている。	○ 今後も職員一人ひとりが虐待防止への意識を持ち、職員間で助け合い・注意しながらゆとりあるケアに取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時や制度改正時（本年度介護報酬改定等）には、重要事項説明書を家族にわかりやすく説明し、理解・納得いただいている。	
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より話しやすい雰囲気作りに心がけ、日々の会話や仕草・表情に注意を向けその人の思いを感じ取り、不満や意見には速やかに改善に向け対応している。	
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時には日頃の生活の様子や健康状態を伝えているほか、体調異変時は都度電話にて報告している。金銭管理については、月ごとに収支明細票と領収書を送付し、家族確認印を頂いている	
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より家族とのより良い関係作りに心がけ、面会時や機会あるごとに様子を伝えながら、気軽に意見や心配事が話せるように努めている。又、出された意見は、家族ともよく相談し速やかに改善に向け取り組んでいる。苦情窓口は重要事項説明書に明記し、ホーム内の目の付く場所にも掲示している。	
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りや会議などで意見を出し合う機会を設け、出された意見は会議などで話し合い反映させている。	
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者の状況変化や職員の急な欠員が生じた場合には、24時間連絡可能な体制ができており、他館の協力も含め、入居者本位の暮らしの支援に向け対応している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新採用時にはスタッフ間で助け合い入居者に早くなじんでいただくようにしている。又、3館合同行事や日常の中で他館入居者とのコミュニケーションを職員一人ひとりが意識し取り組み顔なじみの関係作りに心がけている。引継ぎは時間を充分にとっている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
17 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を作成し、外部研修・内部研修を実施できるようにしている。内部研修は各項目ごとに勉強会を行い、特に日常職務の中での勉強・自己啓発として全スタッフがやっている。	○	今年は去年よりも多くの職員が研修に参加し、自分自身のスキルアップに繋がったように思われる。来年度もより多くの職員が研修できるように勤務体制を整えたい。
18 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流会を持ち、入居者の方々は楽しみ、職員はお互いに質の向上につながっている。グループホーム協会に加入し、様々な研修に参加することで交流ができ、又、情報をいただき職員がその情報を共有することでスキルアップすることができている。		
19 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	機会あるごとに親睦会を設けたり、悩み事や相談事があるときにはいつでも相談できるような体制を取っていただき解消に向け配慮いただいている。		
20 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得や外部研修にも積極的に支援していただき、又年1回の健康診断や予防接種も行い、やりがいのある安心して働ける職場作りに配慮いただいている。又、ほぼ毎日訪問し現場状況の把握に努められている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談の際には今までの本人、家族の生活状況や思いを理解し受け止めながら、ニーズの把握に努め安心して利用できるように対応している。	
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の状況を把握し、適切なサービスに繋げられるようにケアマネージャー、各関係機関とも相談しながら対応している。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の希望や生活習慣を大切に家族からの情報や協力も得ながら、他入居者との関わりにも本人の視点に立って援助を行い、ホームの生活に馴染んで安心して暮らすことができるように配慮している	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で食事の準備、掃除、洗濯たたみ等入居者一人ひとりの個性を生かし、個々の能力を引き出せるように取り組んでいる。又、入居者の得意とする分野では、方法について学ぶことも多く、お互いに支え合う関係も築けている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には入居者の日頃の様子や状態について伝えている。又、家族の意向や入居者の思いを受け止めケアに反映し、安心した生活ができるよう共に考え、相談しあいながら進めている。		
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者と家族の絆を大切にするため、面会時や電話連絡、ホーム便りにて日常の様子を伝えたり、楽しく活動している場면을写真に撮り手紙と一緒に送っている。		
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者がかつて集会へ参加していた頃の知人との交流が今でも途切れることなく続いている。今まできずいてきた人間関係を大切にし本人の希望が叶うように支援している。		
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者個々の状態や人間関係を把握し、行動・様子に注意を払い見守りしている。場合によっては職員が間に入り両者の関係がうまくいくよう対応している。		
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も家族との関わりを大切に、困ったことがあればいつでも相談に応じることを伝えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報も得ながら、入居者との会話を通じて本人の思いや希望を引き出しできる限り意向に添うよう努めている。聞き取り困難な方は、日常の言葉、様子を観察し本人の視点に立って把握できるようにしている。	
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者、家族、関係者より情報収集しこれまでの生活暦等を共有、アセスメントツールに反映させ日々のケアに取り入れている。	
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の様子を活動記録、健康管理表に記録し申し送りやミーティング等で情報の伝達を行い入居者の状態を把握している。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者の日々の生活や言動に注意し家族の要望も聞きながら、本人にとって何が大切であるかを重点に置き、職員間でアセスメント・意見交換しながら、看護師が行う長谷川式スケールも含めて介護計画に反映させている。	
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的にモニタリング・評価をして計画の見直しは行っているが、新たなニーズが発生した場合や目標の達成度により本人の思いを含め家族、関係者と相談し、随時計画の見直し・検討を行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人のファイルや観察記録表にケアの気づきや関わったこと、健康状態を記録し、職員が情報を共有して日常のケアや計画の見直しに活用している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師による日常的な健康管理を行い、又、系列医療機関と24時間体制で連携を取っており、入居者、家族とも安心して過ごされている。系列医療機関の夏祭りに家族と一緒に参加したり、併設されている託児所との交流もあり入居者の楽しみの一つとなっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	町内会の総会を通じて災害時や無断外出の救護の協力を呼びかけ、入居者が安心して生活できるようにしている。		
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じてケアマネジャーや福祉用具専門員、各機関と相談しサービスを利用できるように支援している。		
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議には市役所介護保険課担当者に出席いただきましたが、地域包括センターとの関わりはありませんでした。	○	必要があれば相談、協働、連携を図っていきたい。



項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>今まで看取りはしていないが、職員が不安にならないように看取りに関して理解し冷静に対応できるよう、今後も勉強を継続していきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	焼肉、お好み焼等、調理の過程を見て楽しみながら食事ができるような献立も取り入れている。入居者の状況や意思を聞きながら食事の準備や片付けを職員と共に行っている。		
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個々の嗜好品を把握し、そのときの気分に応じて好きな飲み物を用意したり、おやつは希望を取り入れお菓子や干し柿なども手作りし楽しみながら行っている。		
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを記録・観察し、行動・様子に注意しながら声掛けや誘導を行っている。又、誘導時にはさりげなく声をかけるように心がけているほか、羞恥心、プライバシーに配慮し物品の置き場所の工夫も行っている。		
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	概ね入浴日は決まっているが、入居者の意向を聞きながら健康状態に合わせて入浴を楽しむことができるよう支援している。又、入浴による身体への負担を考え、湯温調整や半身浴を進めている。		
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	様子を観察し、疲れているようなときには休息を促している。夜間眠れない方には付き添ったり、飲み物を提供するなどしている他、眠れない要因を突き止め、生活のリズムを整えるよう支援している。		
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴や力量に応じて、日常生活での役割ごとを決め生活に張り合いが持てるよう取り組んでいる。又、一人ひとりの楽しみごとを見つけ日常的に支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は家族同意の上所持している。又、一人一人の力量に応じて、職員が付き添い見守りながら支払うなど、自信に繋がるよう支援している。		
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や個々の希望に添ってドライブや散歩等の支援を日常的に行っている。外出の際には移動方法や場所の確認、職員の人数などに注意し支援している。		
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者が行きたい場所を把握しており年間行事予定に盛り込み、家族の参加も募っている。又、個人の希望もできるだけかなえられるよう家族にも働きかけている。		
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が気兼ねなく電話ができるように職員からも声をかけ働き掛けているほか、手紙は希望があればいつでも支援できるようにしている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間は定めず、いつでも気兼ねなく訪問できるように支援している。面会時には職員が笑顔で出迎えることを心がけ、ゆっくりと過ごしていただける場所の提供に配慮している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	BPSDに対する基本的対応を職員は理解して、ミーティングや日々のケアの中で対応を検討しながら職員全員で助け合い、話し合いながら「身体拘束をしない」を各自が自覚を持って取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	その日の思いや行動を観察し、ゆっくりと話しを聞いたり付き添ったりしながら入居者の思いを受け止め対応している。入居者の状況によっては安全性を考慮し家族に説明、同意を得て施錠することもある。	○	地域の方へ協力していただけるよう呼びかけたり、個々のBPSDの原因を突き止め事前の対応に心がけている。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者が見える場所に職員がいるよう、職員間で声を掛け合い入居者の様子の把握に努めている。居室で過ごされることの多い方については適宜訪室し、又、夜間は見守りや巡回を行い随時安全確認を行っている。		
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	自己管理できるものはしてもらい、注意が必要なものについては利用者の目につかないように保管の工夫をしたり施錠をする等の対応をしている。又、状況の変化に応じて管理の再検討を都度行っている。		
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者個々の状況を把握し、ミーティングや日常の中で事故防止について話し合い事前の対応に向け取り組んでいる。ヒヤリハット時や事故発生時には報告書を作成し、職員全員で振り返り、対策検討を行い再発防止に向け取り組んでいる。		
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルに添って対応できるよう、応急手当や救急救命の勉強会を行ったり、日頃よりミーティングや日常の中で看護師の指導を受けながら再確認している。		
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し昼夜想定避難訓練を定期的に行ったり、業者による消火器取り扱いの指導も受けている。又、運営推進会議や町内総会にて地域の方へ協力を呼びかけている。災害時に備え非常持出品の準備もしている。	○	今後も地域と一緒に協働・連携できるよう働きかけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日頃より家族には日常の様子を伝え、起こりえるリスクとその対応についても説明し理解を頂いている。状態の変化が見られた場合には、その都度話し合いを行っている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者の普段の状況を把握し、体調の異変に早期に気付くよう努めている。体調異変があった場合には状況等記録し、申し送り等で伝達して職員全員が共有し対応できるようにしている。		
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を記載した服薬カードを作り、そのカードに薬をセットして、服薬時には飲み忘れや誤訳がないように内容を確認しながら服薬介助を行っている。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の排便状態を観察し、腹部マッサージや体操、歩行運動を行い自然排便ができるようにしている。水分摂取量を記録し十分な摂取量の確保を進めている。		
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声かけ誘導し、個々の力に合わせて介助対応している。都度、口腔内の観察や入れ歯の消毒を行い、入居者によっては歯科医の指導により口腔内のマッサージも行っている。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表に食事の摂取量や水分量を記録し摂取状況を把握できるようにしている。又、栄養士の指導、助言を受け栄養バランスにも注意し献立を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	健康管理、感染予防マニュアルを作成し、除菌、消毒などマニュアルに添って予防している。流行している病気（インフルエンザ等）は講習会などに参加したり、情報収集を行い、予防や対応策については勉強し全職員が周知するようにしている。インフルエンザ予防接種は、入居者、職員全員が行っている。		
76	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具や布巾の消毒は每晚行い、台所周りは念入りに掃除して清潔な状態を保つようにしている。食材は新鮮なものを購入し、賞味期限に注意しながら献立作成、調理をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には安心して出入りができるような、なだらかなスロープ、手すりが設置されている他、季節の花を飾っている。散歩がてらにスロープを利用し運動していかれる地域の方もあり親しみを持っていただいている。		
78	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には心が和むような季節の花や観葉植物を置いている。ホールには大きなガラス窓が設置され、心地よい日差しが入り外の景色が眺められるなど開放感のある空間となっている。		
79	○共用空間における居場所づくり  共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場として館内にはソファ、テーブルがあり、園内には東屋にベンチを置き利用者同士がくつろげる場所として用意されている。又事務所や和室なども解放し、その時々思いによって過ごす場所の確保ができるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室にはこれまで使い慣れた調度品や思い出の ものを持ち込んでいただいたり、自身が書いた 絵や作品を飾り居室で過ごされる際も気持ち が和むよう工夫している。		
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	適度に自然の空気を取り入れたり、空気清浄機 や加湿器を使用している。ホール、各居室 には湿温度計が設置され利用者の状態に応 じて調整し身体に負担をかけないよう配慮 し取り組んでいる。		
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生 活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており各所に 手すりが設置され、シルバーカーや車い すも使用できるような十分なスペースを 確保している。又、個々の身体状況の変 化に応じて生活環境の改善に努め、自 立した生活ができるよう取り組んでい る。		
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	入居者の混乱を招くような環境の要因 に対して目印をわかりやすく掲示したり 、クロス選びや飾り・掲示物にも注意 しながら都度改善に向け取り組んでい る。		
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動で きるように活かしている	畑には季節の野菜を植え成長の様子や 収穫を楽しんでいる。中庭では、さま ざまな行事活動や気分転換の場所と して活用されている。		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「はなは」は自然に恵まれ四季折々の景色を眺めながら、入居者の皆様はゆっくりとした日々を過ごされています。地域の方との交流も増し、地域の方（地元にある）のブルーベリー園や栗山の利用に声をかけていただき、遊びに行ったりしています。又、医療機関の系列であり、いつでも看護師・主治医と連携を取りながら健康管理を行っており、精神的・身体的にも安心した生活を送ることが出来ています。